

**札幌市円山動物園基本方針「ビジョン 2050」(案)
に対するご意見の概要と札幌市の考え方について**

2019年(平成31年)3月

札幌市

市政等資料番号
01-J03-18-2776

目 次

1 .意見募集の概要	… 1
2 .パブリックコメントの内訳	… 2
3 .パブリックコメントに基づく当初案からの修正点	… 3
4 .パブリックコメントに寄せられたご意見と札幌市の考え方	… 8

1. 意見募集の概要

(1) 意見募集の趣旨

札幌市円山動物園では、開園 100 年目である 2050 年に向けて、円山動物園が持続可能であるために、何を目指し、どのように進んでいくのか。また、そこで働く職員がその実現のために、何に取り組んでいくかについて検討を進め、円山動物園基本方針「ビジョン 2050」(案)として取りまとめました。

この方針を市民・事業者の皆さまと共有し、同じ将来像や目標を見据えて、ともに取組を進めていけるよう、方針案に対する意見募集を実施し、頂いたご意見は方針案に反映させていただくほか、今後、「ビジョン 2050」を推進していく際の参考とさせていただきます。

ご意見をお寄せいただいた皆さま、誠にありがとうございました。

(2) 意見募集期間

2019 年（平成 31 年）1 月 17 日（木）から 2 月 17 日（日）まで

(3) 意見提出方法

円山動物園への郵送・持参、ファクス、電子メール、ホームページのご意見募集フォームからの送信

(4) 資料の配布場所

- ・ 札幌市円山動物園
- ・ 札幌市役所本庁舎 2 階 市政刊行物コーナー
- ・ 各区役所総務企画課広聴係
- ・ 各まちづくりセンター
- ・ 札幌市環境プラザ（札幌市北区北 8 条西 3 丁目 札幌エルプラザ 2 階）

(5) 意見募集の周知方法

- ・ 札幌市公式ホームページへの掲載
- ・ 行事实施時に合わせた情報発信
- ・ さっぽろ市民参加メールマガジンでの情報発信

2. パブリックコメントの内訳

(1) 意見提出者数・意見数

意見提出者数 : 29人

意見数 : 130件

(2) 意見提出者の年代別の内訳

分類	20代	30代	40代	50代	60代	不明	合計
提出者数	12人	1人	5人	10人	1人	0人	29人
意見数	22件	1件	28件	77件	2件	0件	130件

(3) 意見提出者の提出方法の内訳

提出方法	ホームページ	郵送	ファクス	電子メール	持参	合計
提出者数	9人	5人	0人	12人	3人	29人
構成比	31.0%	17.2%	0%	41.4%	10.3%	—

(4) 意見内容の内訳（方針案の構成に沿って分類）

本書では、「ビジョン 2050」（案）に対して寄せられた意見につきまして記載しております。「ビジョン 2050」（案）公表に伴い動物園に寄せられた意見につきましては、後日、動物園のホームページに掲載させていただきます。

分類	意見数	構成比
「ビジョン 2050」（案）に対して寄せられた意見		
「ビジョン 2050」全体	3件	2.3%
第1章 はじめに	2件	1.5%
第2章 円山動物園が目指す未来	5件	3.8%
第3章 基本理念に基づく取組	26件	20.0%
第4章 基本理念を実現するための基盤	8件	6.2%
第5章 検討経過	0件	0%
小計	44件	33.8%
「ビジョン 2050」（案）公表に伴い動物園に寄せられた意見	86件	66.2%
合計	130件	100%

※ 構成比の値は四捨五入しているため、内訳の合計値が 100.0%にならない場合があります。

3. パブリックコメントに基づく当初案からの修正点

市民の皆さまから頂いたご意見を基に、当初案から 13 項目の修正、追記等を行いました。

No.	修正箇所の ページと項目	意見の概要（市の考え方）	
		修正前	修正後
「第 1 章 はじめに」に対する意見			
1	○P6 (3) 円山動物園の動物 たちと動物園・水族館 との連携 本文 7 行目	「しかしながら」は、文脈上「他方」ではないでしょうか。	
		<u>しかしながら</u> 、海外からの個体導入にあたっては、	<u>他方</u> 、海外からの個体導入にあたっては、

No.	修正箇所の ページと項目	意見の概要（市の考え方）	
		修正前	修正後
「第 2 章 円山動物園が目指す未来」に対する意見			
2	○P11 3 取組の概念図	円山動物園の取組で「生息地」は重要なキーワードです。取組の概念図に入れるべきではないでしょうか。	
			<u>概念図の上部「連携」「地球」「地域」の位置関係を整理し、「生息地」という表現を加えることとします。</u>
3	○P11 3 取組の概念図	基本理念の重点項目の非常に重要なところなので、キーワードをもう少しきちんと入れ込んだ方がよいと思います。具体的には、リ・クリエイションの横にある「関係部局」は、動物園にとっては動物園の関係部局ということで自明ですが、一般市民としては何かが分からないので、「行政機関」とした方がよいと思います。	
		<u>関係部局</u>	削除 ※「国や北海道」「社会教育施設」等も「行政機関」に含まれることから、より分かりやすく表現するために、区別して記載しています。一方で、「関係部局」という表現は、円山動物園から見た札幌市役所内の関係部局を想定しておりましたが、「ビジョン 2050」は札幌市として策定したものであり、市役所内の関係部局との連携を前提とするものであることから、記載する必要がないため削除することとします。

3.パブリックコメントに基づく当初案からの修正点

No.	修正箇所の ページと項目	意見の概要（市の考え方）	
		修正前	修正後
4	○P11 3 取組の概念図	調査・研究のところに「民間企業」とありますが、これをリ・クリエーションの近くに置いて、場合によっては、売店やイベント、広報や交通機関について、民間企業と行政機関で協力しながら、リ・クリエーションをするようにしてはいかがでしょうか。	
			リ・クリエーションの近くに「民間企業」を置くこととします。

No.	修正箇所の ページと項目	意見の概要（市の考え方）	
		修正前	修正後
「第3章 基本理念に基づく取組」に対する意見			
5	○P14 コラム 円山動物園の周辺環境 ニホンザリガニ	「円山動物園の周辺環境」については「都市と自然の共生（動物園の森）」とし、「ニホンザリガニ」については「日本固有種の保全（ニホンザリガニ）」とした方が、さらに円山動物園の取組として強調できるのではないのでしょうか。	
		「 <u>円山動物園の周辺環境</u> 」 「ニホンザリガニ」	「 <u>都市と自然の共生</u> 」 「 <u>日本固有種の保全（ニホンザリガニ）</u> 」
6	○P16 コラム	標題と内容が不一致ではないでしょうか。	
		<u>なぜホッキョクグマを飼育するの？</u>	<u>なぜ、世界各地を生息地とする動物を飼育展示するの？</u>
7	○P18 ア “生きている”を伝える博物館 本文4行目	「と」が抜けています。	
		…動物たちの生き生きした姿を見せる展示、伝え方を考えていきます。	…動物たちの生き生きとした姿を見せる展示、伝え方を考えていきます。

3.パブリックコメントに基づく当初案からの修正点

No.	修正箇所の ページと項目	意見の概要（市の考え方）	
		修正前	修正後
8	○P20 動物園における調査・ 研究の必要性 7行目	コラムの中に「人獣共通感染症」という専門用語が出てきますが、これに限らず、市民に公表される当該文書においては、最後に、「用語集」をつけたらどうでしょうか。	
		… <u>人獣共通感染症</u> の研究につなぎ…	… <u>動物由来感染症</u> の研究につなぎ…
		※文脈や分かりやすさを考慮すると、厚生労働省の使っている「動物由来感染症」の方が適切であるため、この表現に変更します。この表現だと漢字から意味も連想できると思われます。また、他の分かりづらい表現につきましては、注釈をつけるなどの対応を行っています。	
9	○P24 【動物園における動物 福祉の重要性】 3行目	「妨げになります。」のあとに、「またそのような展示は、来園者に、動物に対する誤った知識、感情を植え付けるとも限りません。」を追加してはどうでしょうか。	
		また、本来の行動と懸け離れた不自然な状態は、正しい調査・研究の妨げに <u>なります。</u>	また、本来の行動と懸け離れた不自然な状態は、正しい調査・研究の妨げに <u>なるばかりでなく、来園者に、動物に対する誤った知識や感情を植え付ける可能性</u> があります。

3.パブリックコメントに基づく当初案からの修正点

No.	修正箇所の ページと項目	意見の概要（市の考え方）	
		修正前	修正後
10	○P24 【動物福祉】全ての命に最善の暮らしを	「動物福祉」と「動物愛護」とは違うというところを明確にしておいた方がよろしいかと存じます。これは市内部で動物園は動愛法の管轄下にあって、これまでも、そしてこれからも同法の規制を受けるのだから、現状のままで十分だという見解をけん制する意味でも、現行法の規制を受けつつも、それだけでは足りない（むしろ動愛法は脆弱だ）、その上のレベルのアプローチがないと海外バッシングのリスクは常につきまとう、動物愛護と動物福祉の高次融合が必要だということを強力に主張しておいたほうが良いかと考えた次第です。	
			P 24 に以下のコラムを設ける。 <u>「動物愛護」と「動物福祉」</u> <u>「愛護」は、人の動物に対する主観的（感情的）なアプローチですが、「福祉」は動物の視点に立った、人の動物に対する専門的、客観的・科学的スキルを前提としたアプローチです。動物園では科学的な根拠に基づいた動物福祉の向上を目指しつつ、日本人が持ち合わせる生命観や自然観、生き物を慈しむ心に配慮しながら、動物園の本来的な役割を果たしていきます。</u>
11	○P25 ウ 質の高い獣医療の提供 本文1行目	「時に」を「ときに」すべきだと思います。	
		必要な医療行為や健康管理であっても、 <u>時に</u> 動物たちの負担になることがあります。	必要な医療行為や健康管理であっても、 <u>ときに</u> 動物たちの負担になることがあります。

3.パブリックコメントに基づく当初案からの修正点

No.	修正箇所の ページと項目	意見の概要（市の考え方）	
		修正前	修正後
「第4章 基本理念を実現するための基盤」に対する意見			
12	○P32 (1) 人材 本文 14 行目	「種の保全」の部分について、「種の保存」の方が一般的ではないでしょうか。	
		<p>さらに、動物園の重要な役割である動物の繁殖や種の<u>保全</u>を進めるためには、…</p> <p>※ P 16 と P 29 に同様の表現があったため下記のとおり修正。</p> <p>P 16 本文 4 行目 動物園が野生動物種を展示する意義は、その動物種の本来の生息環境の<u>保全</u>に還元されてこそ意味があります。飼育する全ての動物種の<u>保全</u>への貢献を念頭に置いた展示や解説を通して、生息環境の現状を来園者に正しく伝えます。</p> <p>P 29 【飼育展示していく動物種の考え方を整理する必要性】 8 行目 …動物種の<u>保全</u>の重要度…</p>	<p>さらに、動物園の重要な役割である動物の繁殖や種の<u>保存</u>を進めるためには、…</p> <p>動物園が野生動物種を展示する意義は、本来の生息環境の<u>保全</u>に還元されてこそ意味があります。飼育する全ての動物種の<u>生息環境保全</u>への貢献を念頭に置いた展示や解説を通して、生息環境の現状を来園者に正しく伝えます。</p> <p>…動物種の<u>保存</u>の重要度…</p>
13	○P35 (4) 動物福祉に配慮するために	動物園全体として、国内外関連施設への派遣、研修や学会参加、さらには人的交流などを促し、動物園獣医師には、動物専門員に並ぶ水準を課していただきたいと考えます。例えば、動物園獣医師は、科学者でもありますので、日本野生動物医学会の専門医（動物園動物医学）を 10 年以内で必ず取得することを前提に、適正を評価するのがよいかと提案します。少なくとも年に 1 回は学術発表するのが責任と考えます。	
			<p>P 25 「ウ 質の高い獣医療の提供」に、以下の項目を設ける。</p> <p>○<u>獣医師については、体系的に知識・技術の習得を進め、スキルアップを行います。併せて、動物園動物の広範な獣医療技術・知識を蓄積するため、各種学会への参加・学術発表等を通して情報交換を進めていきます。</u></p>

4. パブリックコメントに寄せられたご意見と札幌市の考え方

「3. パブリックコメントに基づく当初案からの修正点」で掲載した以外に頂いたご意見の概要と、札幌市の考え方は以下のとおりです。これらのご意見については、今後の動物園における施策や取組において、実施する際の参考とさせていただきます。

No.	意見の概要	札幌市の考え方
「ビジョン 2050」全体に対する意見		
1	元号表記について検討を行った方が良いのではないのでしょうか。	西暦表記を基本とし、国内の動向については元号を併記した方が分かりやすいため、括弧書きで記載しています。
2	「ビジョン 2050」は、様々な環境や役割の大きな変化から新たに策定したと記述されていましたが、平成 19 年（2007 年）3 月 22 日に策定された基本構想から継承された項目と新たな項目を示して欲しいです。基本構想の「円山動物園の役割」や「基本理念」、「3つの柱（行動指針）」の内容はビジョン 2050 と重複する事項が多く両者の明らかな差がよくわかりません。また、基本計画の平成 28 年までの進捗報告を行い、未達成項目で「ビジョン 2050」に継続する項目はしっかりと盛り込んで下さい。	「ビジョン 2050」は、開園 100 年目である 2050 年に向けて、円山動物園が持続可能であるために、何を目指し、どのように進んでいくのか。また、そこで働く職員がその実現のために、何に取り組んでいくのかについて検討を進め取りまとめたものであり、基本構想に替わる新たな基本方針として策定したものです。
3	平成 17 年（2005 年）には、職員が寄贈の餌、自宅に持ち帰るといった事件が発生しました。その 2 年後に基本構想が策定されましたが、その甲斐もなく平成 27 年（2015 年）には動物虐待を含む不適切な飼育作業のため「改善勧告」を受けることになりました。「ビジョン 2050」には再々発を防ぐための方策を重点項目に加えて下さい。また、再発防止のため市民動物園会議から 3 つの提言がありましたがその成果の検証は行われていないので、その結果も付け加えるべきです。	動物福祉を基本理念に基づく取組の根幹としています。また、職員の行動指針の中でも動物福祉に配慮するための約束をしています。市民動物園会議からの 3 つの提言については、平成 31 年 1 月 15 日に開催された平成 30 年度第 2 回市民動物園会議において、改めて取組結果の報告を行っています。

4.パブリックコメントに寄せられたご意見と札幌市の考え方

No.	ページと項目	意見の概要	札幌市の考え方
「第1章 はじめに」に対する意見			
4	○P6 (3) 円山動物園の動物たちと動物園・水族館との連携 本文1行目	「飼育下の動物は、野生下よりは寿命が長い傾向にあり」のあとに「これは飼育員や獣医の、これまでの動物への愛護ないしは福祉の懸命な努力のためのものであると考えられますが、その一方で、」を追加したらどうでしょうか。	ここでは一般的な飼育下の動物の傾向を示しています。

No.	ページと項目	意見の概要	札幌市の考え方
「第2章 円山動物園が目指す未来」に対する意見			
5	○P11 3 取組の概念図	葉っぱに関係する鳥や虫など、シルエットだけでもいいので入っていると、華やかで目を引くと思います。	概念図は円山動物園の取組の位置づけを示したものです。本書のほかに概要版を作成する予定ですので、そこでは、動物や植物などの写真やイラスト等を使用したいと考えています。
6	○P11 3 取組の概念図	はじめに2050年と言わず、できるところから即実行を望みます。その中で概要版の取組図に、もう1つ枝として、バックではなく「連携」を加えてはと意見を書かせていただきました。動物園からの一方向な姿勢だけでなく、地域からの「受け入れ」をすることで、動物園と地域の方達とのやり取りができる受身の形を加えて欲しいからです。 「連携」を5本目の枝として、動物園と地域の方達・環境の両方向で協力し、共生できるように密着型の動物園を望んでいます。	「連携」は、取組の根幹である「動物福祉」と、重点項目である生物多様性の「保全」、「教育」「調査・研究」「リ・クリエーション」の取組を総合的に進める上で、さまざまな人たちと連携・協力が必要であることから、これらの取組に重なるように概念図を表現しています。

4.パブリックコメントに寄せられたご意見と札幌市の考え方

No.	ページと項目	意見の概要	札幌市の考え方
「第3章 基本理念に基づく取組」に対する意見			
7	○P12 (1)【保全】動物園の強みを生かして生物多様性の保全に貢献する	平成30年(2018年)4月4日に開催された平成30年度第1回市民動物園会議の資料の中で非常に良いと思っていたキーワード「アンブレラ種」「フラッグシップ種」が削られています。動物園の主な動物はアンブレラ種とフラッグシップ種なのだという書き方でしたが、円山動物園の現状を考えると、アムールトラやカバ、ライオン等の高齢動物のアンブレラ種やフラッグシップ種の後をどうするのかを考えたとき、生物保全や生物多様性の考え方からすると、アンブレラ種だけが重要ではない、これ以外も重要であるということをごどこかに書いておいた方が良いと思います。	平成30年度第1回市民動物園会議でお示した資料では、「動物園で飼育される動物の多くは、アンブレラ種やフラッグシップ種です。これらの保全に携わることで、より多くの動植物や、より広い範囲の生物多様性保全につながります」と記載していました。 しかし、ご意見にもございますとおり、これらの種だけが重要ではありません。円山動物園はこれらの種だけでなく、飼育する野生動物種の生息環境の保全活動に関わっていきたく考えていることから、あえて、これらのキーワードに触れる必要はないと判断し削除することとしました。
8	○P13 本文4行目	保全活動の担い手の育成とありますが、具体的施策が保全の必要性を訴えることと保全団体への資金的補助となっており、円山動物園を入り口とした担い手育成という面では弱いように思います。募金に加え、円山周辺で環境保全活動を行っている団体や、海外の生息地での保全活動を行っている団体のメンバー募集ポスターなど、生態系保全や環境問題を身近な問題として捉えて貰えるようなポスターを常設的に貼るスペースを設けることで自分達でも出来ることのあるのでは、と来園者に考えて貰うことも大切だと思います。	これまでも生物多様性の保全や環境教育に関連する団体等のポスターの掲示は行っています。今後もポスター掲示などをとおして、環境保全活動を活性化する拠点となることを「ビジョン2050」では目指しています。
9	○P13 コラム	「森林伐採による影響」について、「寒冷地エネルギーの工夫(木材資源の活用)」とした方が、さらに円山動物園の取組として強調できるのではないのでしょうか。	このコラムは、人間の経済活動に伴う「森林伐採の影響」を伝えたいと考えていることから、この標題としています。

4.パブリックコメントに寄せられたご意見と札幌市の考え方

No.	ページと項目	意見の概要	札幌市の考え方
10	○P14・P15 ア 円山動物園周辺の生物多様性の保全 イ 北海道・札幌市の生物多様性の保全	円山動物園ではないとできない、よその動物園にはない取組を強調した方が良いと思います。具体的には、「ア円山動物園周辺の生物多様性の保全」に代えて、例えば「都市の環境と自然環境の保全」あるいは「都市の環境と自然環境の共存」などです。また「イ北海道・札幌市の生物多様性の保全」ではなく、寒冷地の人間社会と生物多様性としてはいかがでしょうか。	P14とP15は、地域の取組を「円山動物園周辺」と「北海道・札幌市」からの視点で分けています。
11	○P15 イ 北海道・札幌市の生物多様性の保全 本文 10 行目	「外来生物の除去活動の促進」という点について、除去をするのではなく外来種を愛玩動物として日本に持ち込まれた動物の末路として動物園で展示することで教育につながるのではないかと考えます。近年テレビ番組で外来生物を悪者扱いする一方で元々日本にいない生物の幼獣だけを放送する傾向があります。今日、日本の自然や生態系を攪乱させている外来生物のうち愛玩動物として人間によって日本に持ち込まれたものもいるということを伝えることで生物はかわいだけではないこと、いずれは大きくなってしまふことを教えて、未来の罪のない命を守る活動につなげるべきであると考えます。	円山動物園では、いわゆる外来生物にあたる生き物として、アライグマ及びクジャクを飼育しています。特にアライグマは特定外来生物に指定されていること、北海道にも定着していることなどから、動物舎での展示においても、外来アライグマの引き起こす問題だけでなく、彼らが持ち込まれ、定着に至った経緯などの解説を行っています。 また、常設ではありませんが、近年は夏休みの特別展として外来生物展を開催し、北海道に生息する外来生物についての解説を行っているほか、外来生物の防除の取組などについて紹介することで、外来生物に対する知識の向上、ペット動物の取り扱いなどについての普及啓発を行っているところであり、今後も機会をとらえて、来園者にこれらの啓発を行っていきたいと考えています。
12	○P15 コラム	「北海道の寒冷地野生動物の復元(オオワシ)」とした方が、さらに円山動物園の取組として強調できるのではないのでしょうか。	この取組名は、円山動物園として使用しているプロジェクト名ですので、この名称を使わせていただきます。

4.パブリックコメントに寄せられたご意見と札幌市の考え方

No.	ページと項目	意見の概要	札幌市の考え方
13	○P16 ア 地球からのメッセージ 本文 10 行目	発信すること、発信するための手法について重きを置いた方針が明記されていません。広く伝えていこうという積極性がみえてきません。メディアとの連携協定や、広報の専門性の向上が求められるのではないのでしょうか。	発信するための手法など具体的な取組につきましては、「ビジョン 2050」に基づいて 2019 年から 2023 年を計画期間として策定する実施計画において検討を進めます。
14	○P17 イ 野生へ誘(いざな)う扉 本文 1 行目	動物園内の環境は生育環境に近い形にすることが理想ではありますが、同時に展示という観点も必要なのが動物園です。ご紹介頂いたフィラデルフィアのトラチューブの様に動物に負荷がかからず且つ展示という点も意識した動物園環境にすることは出来ないのでしょうか。また、夜行性の展示動物もいることを考慮し、夜の動物園ツアーなどを企画することで行動する姿の展示に繋がれることと思います。	動物達本来の生き生きと行動する姿や、生息地を出来るだけ再現し、来園者の皆様が野生での姿を思い描いていただくのが、今後の動物の展示や施設構造を考える上で必要不可欠な要素と考えています。なお、夜の動物園については、動物への負担も考慮しつつ、実施方法についての検討を進めてまいります。
15	○P17 イ 野生へ誘(いざな)う扉 本文 6 行目	「野外へ出るステップを意識して取り組みます。」という点について、野外でのフィールドワークのマナーも教えるべきではないかと考えます。 (例) 絶滅が危惧される珍しい昆虫や植物を捕まえてはいけません。クマやイノシシが出るような危険な場所には行ってはいけません。など。	こうした取組を実施する際は、頂いたご意見にございますようなフィールドワークのマナーなども伝えてまいりたいと考えています。
16	○P17 イ 野生へ誘(いざな)う扉 本文 8 行目	各地域で保全や研究に取り組む団体、機関の情報発信とありますが P 41 の来園者からの意見でもいくつか出ているように海外の自然保護団体による講演会・シンポジウムも動物園で行えたら良いと思います。	機会を捉えて、頂いたご意見にございますような取組も展開してまいりたいと考えています。

4.パブリックコメントに寄せられたご意見と札幌市の考え方

No.	ページと項目	意見の概要	札幌市の考え方
17	○P18 ア “生きている”を伝える博物館 本文 14 行目	動物の野生的な姿を見せる、「怖さ」を感じさせるというのは動物園の展示に関して非常に難しいことと思います。恐らく生体の展示でそれを行うことを考えると動物に過度な負荷がかかってしまいます。それを防ぐためにこれは写真展示場もしくは動画を流すスペースを設けそこで展示すべきものであると思います。	「怖さ」は、動物の生の大きさ、声、そして、エサを食べる仕草など、さまざまな場面で感じることが出来ると考えています。また、動物の飼育展示については、動物福祉の考え方に基づき動物本来の行動を引き出すことが出来るよう配慮します。
18	○P18 ア “生きている”を伝える博物館 本文 17 行目	動物とのふれあいの場を提供する、という点ですが、これは個人的には反対です。こちらの「ビジョン 2050」(案)全体を通して読むと円山動物園の目指すところは動物園を入り口として展示動物本来の生息地や地球全体に思いを馳せて貰う、というものだと感じました。然しここに愛玩動物を持ち込むことはそのコンセプトと齟齬を感じてしまいます。心をはぐくむ、という点であれば直接の触れ合いがなくとも出来るものであると思います。	円山動物園では、動物に直接触れ、温もりや柔らかさを感じていただき、かつ、自らの動きに対し動物がどう反応するかを直接経験することにより、命の大切さや尊さを伝えることが出来ると考えています。そして、こうした他の命を尊重するという体験が、将来的に自然をまもるための行動につながり、自然と人が共生する持続可能な社会の実現に貢献するものと考えています。なお、実施にあたっては、人との関係性を長く築いてきた家畜種を中心に行うとともに、動物福祉の考え方に基づき動物本来の行動を引き出すことが出来るよう配慮します。
19	○P18 イ 多様なアプローチ	円山動物園の強みを生かすところとして、P 18 あたりに、都心であることを示すため、札幌市の地下鉄の路線図みたいなもの、あるいは、主な小学校を点で振るなどすべきであると思います。円山動物園は主な小学校から 30 分で来られるところにあります。そんな動物園は全国にもそれほどありません。例えば、交通機関 30 分圏内に小学校 40 と入れたり、地図で地下鉄路線図を出して、こんなど真ん中にあることを示す、あるいは、周りに小学校や中学校がこれだけある、大学もあるし獣医病院もあるなど、そういうことを示せると良いと思います。	頂いたご意見のようなことを表現するため、P 14 に周辺地図を挿入しましたが、スペースの都合上、地下鉄の路線図等は入れることができませんでした。

4.パブリックコメントに寄せられたご意見と札幌市の考え方

No.	ページと項目	意見の概要	札幌市の考え方
20	<p>○P20</p> <p>(3)【調査・研究】動物のこと・環境のことを探求する</p>	<p>私の動物園が存在する意義は、動物生態について研究し、地球規模の環境保全へ応用していくことだと考えます。それは、人類にとって住む場所である地球は失ってはいけない最も大切な存在だと考えるからです。</p> <p>この考えから、～ビジョン 2050 (案) P20 (3)【調査・研究】動物のこと・環境のことを探求するのイ調査・研究の技術を磨く～に関して、これは費用の問題から動物園の規模によって、新しいことへの挑戦が難しいと考えられます。しかし、円山動物園は、周囲からの関心、来園者数、新しい施設の導入などを行っており、新しい技術を共有し他の動物園をサポートすることができるのではないのでしょうか。また、責務であるとも考えます。</p> <p>ですから、学会の発表だけでなく常に他の動物園と意見を出し合うツールやシステムを確保し、いつも会話レベルで交流ができる環境を整えるべきではないのでしょうか。動物園同士の技術に関するツイッターのようなもので構いません。</p> <p>そういったものがあれば、学会では発表されない小さな気づきが共有でき、動物園全体での向上が可能ではないのでしょうか。</p> <p>動物園全体のレベルアップが地球環境保全に役立つと考えます。</p>	<p>これまでも、他の動物園とは会議や電話、メールなど様々な機会を捉え意見交換を行い、動物園水族館全体の技術向上に努めているところです。</p> <p>頂いたご意見につきましては、重要な視点であると考えていますので、今後の施策展開の参考とさせていただきます。</p>

4.パブリックコメントに寄せられたご意見と札幌市の考え方

No.	ページと項目	意見の概要	札幌市の考え方
21	○P20 (3)【調査・研究】動物のこと・環境のことを探求する	調査・研究のために門戸を開きたいという方針に伴う『成果の残し方』について明確に記されていないことです。データの入力や保管に関する方針を定め、公共性？信頼性のある成果を残すための方策を示してほしいと思います。そうしなければ、調査研究という、社会に資する素晴らしい活動の効果も薄いと思われますし、関わった者のメリットも担保されません。ご検討ください。	調査・研究の成果につきましては、「調査・研究」のイの項目にありますとおり、学会や論文で発表を行うほか、関係機関に情報を提供するとともに、市民に対しても分かりやすい報告書を作成することなどによって、成果を残してまいりたいと考えています。また、データの共有や活用など、調査に関わる方々にとっても有意なものとなるよう、検討を進めてまいります。
22	○P22 ア 市民に身近な動物園 本文5行目	「ア」のひとつ目の文章の三行目、「一人一人」とあるが、「一人ひとり」もしくは、横書きなので「1人ひとり」が正確かと思えます。	最新の新聞用字用語集の表現に合わせています。
23	○P23 イ 良質な憩いの空間を提供 ウ 動物園を楽しむという文化を根付かせる	「イ 良質な憩いの空間を提供」× 「イ 良質な学びの空間を提供」○ 「ウ 動物園を楽しむという文化を根付かせる」× 「ウ 動物園を感じるという文化を根付かせる」○ “憩い”や“楽しむ”という人間目線の表現に違和感を感じます。動物も人間も対等、あるいは動物＞人間とさえ考えています。動物園は彼らの住まいであり、敬意を払い、学ばせていただく貴重な場所。人間社会以上の道徳を学ぶべき場所となることが理想と考えます。上記はタイトルを変えただけではないのです。方向性を見直してください。	動物園は環境だけでなく、知的好奇心を満たす空間であり、動物を通して命の大切さを知る所でもあります。「ビジョン2050」では、リ・クリエーション（再創造）の場として新しい動物園の役割を果たしていきたいと考えています。

4.パブリックコメントに寄せられたご意見と札幌市の考え方

No.	ページと項目	意見の概要	札幌市の考え方
24	○P25 コラム	円山動物園で行っている生態別展示を強調した方が良いと思います。例えば、P25にある環境エンリッチメントと行動展示はどう違うのか、さらに、円山動物園がやっている生態別展示とどう違うのかを少しでも書いてもらえると、円山動物園の独自性を生かすときのキーワードになると思います。	動物の飼育展示環境は動物福祉及び来園者への普及啓発効果の向上を念頭に作り上げるべきものであり、その手段は必ずしも一つではありません。動物の本来の行動を引き出し、また、来園者が彼らの生態や置かれている環境を正しく学ぶことが出来る方法をそれぞれの動物において検討していくことで、各動物種に応じた適切な展示を実践していきます。
25	○P27 3 連携	キ～ケは分けなくても良いのではないのでしょうか。また、ケの後半の研究機関のくだりはオと統合しても良いのではないのでしょうか。	道内の動物園・水族館とは、各々の特徴を生かし連携を深める必要から、項目を分けています。また、基本理念に基づく「保全」「教育」「調査・研究」の取組を進めていく上で、今後、海外との連携が重要となることから、「ケ」の項目を設けました。

4.パブリックコメントに寄せられたご意見と札幌市の考え方

No.	ページと項目	意見の概要	札幌市の考え方
「第4章 基本理念を実現するための基盤」に対する意見			
26	○P29 1 飼育展示していく動物種の考え方	札幌市において、動物種の選び方を考えるとき、市民にも説明すべきだと思いますし、域外でしか保全ができない、あるいは、代替生息地として動物園を考えなければいけないという新しい概念「生息域外保全」は説明した方が分かりやすいと思います。	飼育展示していく動物種の考え方につきましてはP29に、生息域外保全につきましては、P5やP12で説明しています。
27	○P32 (1) 人材	「人材」とあるが、第3段落では施設の話になっており、人材の後に施設が出てくると内容と見出しが合わないため「人材と施設」とした方が良いと思います。	施設の維持管理には専門知識を持つ人材が必要と考えています。
28	○P32 (1) 人材	P35の(5)のチームワークをP32人材の第3段落に入れた方が良いのではないのでしょうか。専門員、獣医師でチームワークというふうに経営基盤の人材にまとめた方が良いと思います。	円山動物園に関わる全てのスタッフ一人一人の視点から記載した行動指針であり、P32は、円山動物園の組織的な側面から「人材」について記載しています。
29	○P34 3 行動指針	行動指針について、第3章の6点をもう一回示すように項目を直した方が良いと思います。重点項目の保全、教育は良い。3の内容はリ・クリエーションのことを記載していますが、標題はそうなっていません。そのため、リ・クリエーションのために、あるいは、「心地よく過ごしていただくために」の後に括弧して、リ・クリエーションとしてはどうでしょうか。また、重点項目のうちの「調査・研究」と「連携」が抜けており、チームワークが代わりに入ってます。第3章で宣言し、その行動を示した方が、締めくくりとしては良いのではないのでしょうか。	行動指針は、円山動物園に関わる全てのスタッフ一人一人の視点から特に重要と思われる項目について記載しています。

4.パブリックコメントに寄せられたご意見と札幌市の考え方

No.	ページと項目	意見の概要	札幌市の考え方
30	○P35 (4) 動物福祉に配慮するために 本文4行目	「動物についての知識を身に付けるとともに、積極的な情報収集を行う」の項目では、情報収集として視察研修を増やすことや、外部の専門家を招くなどして勉強会を増やすべきです。	「調査・研究」のイの項目にありますとおり、積極的に外部から講師を招くとともに、園外での研修や技能訓練を受講する機会を設けます。
31	○P35 (4) 動物福祉に配慮するために 本文7行目	「全職員のスキルアップ、レベルアップに職員一人一人が自ら取り組む」の項目では、それぞれが取り組んだ内容について、職員同士が確認し合える場を作るべきです。	「調査・研究」のイの項目にありますとおり、定期的に研究成果を発表する場を設けるなど職員同士が情報を共有し、相互にレベルアップを図っていきます。

札幌市環境局円山動物園

TEL : 011-621-1426 FAX : 011-621-1428

E-mail : zoo.kanri@city.sapporo.jp